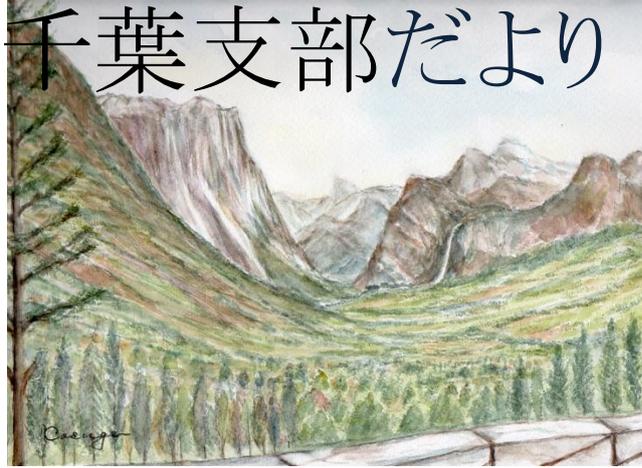




J・A・C

(第 50 号)

千葉支部だより



令和 2 年 4 月発行

発行元 (公社) 日本山岳会千葉支部

〒285-0850

発行者 松田 宏也

編集者 吉野 聡

E-Mail cib@jac.or.jp

ヨセミテ公園(エルキャピタン)

水彩画 小菅一弘(敬称略)

茨城で四支部合同懇談会

三田博

今年で 13 回目となった 4 支部合同懇談会が 2 月 15 日・16 日、つくば市にて行われ、茨城・栃木・群馬・千葉から 43 名が参加した。千葉支部からは 10 名が出席した。今年度主催の茨城支部の浅野勝己支部長は、2007 年に関東に 3 支部が誕生し、翌年から始まった合同懇談会の歴史に触れつつ、これからも支部同士の交流が大切であると挨拶した。

記念講演では、茨城支部友の奥井登美子さんが「霞ヶ浦と筑波山の環境問題に取り組んで」と題して、霞ヶ浦の水質の悪化に住民として声を挙げて自然保護運動に取り組んできた、これまでの歴史をエピソードを交えて話した。

続いて栃木支部の渡邊雄二支部長により、昨秋行われた日本山岳会 120 周年記念の国際交流事業であるエクアドル遠征を「赤道直下の氷河の山ー日本・エクアドル友好登山隊 2019」と題して報告を行った。また、夕方からの懇親会では円卓を囲んで、久しぶりの再会を喜び、また初参加者も賑やかに交流を楽しんだ。



雨予報の 16 日はつくば市の宝篋山 (461m) に登った。歩き出すとすぐにポツリポツリと降り出した。晴れていれば筑波山が目の前に聳え、霞ヶ浦も見下ろせるとのことだったが、この日の展望はなし。強くは降らないものの下山時まで小雨は変わらなかった。宝篋山は低山ではあるが、コースも多彩で、アンテナ施設のある頂上は広場のようにベンチなどもあり、お弁当を持って遠足気分で登るのに適した山のようなであった。

(参加者：松田宏也、山口文嗣、小林義亮、中場義則、櫻田直克、山本哲夫、野口徹、三田博、講演のみ参加＝湯下正子、羽藤美代子)

房総の沢を歩く (4回シリーズ)

三田博

房総の沢は、高低差が少なく癒し系の沢だ。危険な滝も少ないので「ウォーターウォーキング」に適している。特有の「川廻しのトンネル」や奇岩やナメがあり面白い。残念なことにヤマビルがいるため、冬場が沢シーズンとなっている。12月から2月にかけて4回シリーズで房総の沢を楽しんだ。

①小糸川・三間川左俣 12月8日(日)、晴れ

◇参加者：三田博(CL)、三品京子、小川和敏、鈴木操、竹内進

◇タイム：遡行開始10:00→遡行終了13:40→駐車地14:40

台風の影響は想像以上。沢の蛇行部分を倒木が塞ぎ、突破するのに手間が掛かった。流れが堰き止められて水かさも増えたのだろう。ヒザ下を濡らす程度だろうと高をくくっていたが、深いところは太腿まで浸からないと通れない。倒木やブッシュの上を登ったり潜ったり、一本橋のように歩いたりアスレチック遡行だ。しかし気持ちのいいナメも随所にある。

左俣遡行、右俣下降を考えていたが、時間切れのため前半戦で終了。それでも最後の急なツメはロープ登攀するなど、なかなか面白かった。奥米林道を歩いて駐車地まで戻り、三島ダムへ。着替え時に沢靴を見ると、この季節でもヒルが2匹付いていた。奴ら、1年中出るようになったか。用意していた「うどん」で温まって、房総の沢1回目を終了した。(三田)

②小糸川・三間川右俣 12月29日(日)、晴れ

◇参加者：三田博(CL) 小川和敏、竹内進、鈴木操、三品京子

◇タイム：入渓地10:00→開墾場の滝10:45→林道折返し地点11:50→開墾場の滝12:20→入渓地13:30

今年最後の山行は三間川右俣の沢登り、前回と同じ一軒家の駐車場側から入渓する。3週間前の左俣とは違い川幅も広いので倒木が少なく川歩きを楽しみながら登る。途中川幅30mはありそうな4mの滑滝、3mの滑滝を登っていくと今日のメイン開墾場の滝が現れる。

大きな口を開けた素掘隧道から水が降り注ぐ姿は迫力満点。少し離れた所の残置ロープを使い滝の口にかかる。開墾場の穴を抜け折返し地点の林道下のトンネル(川廻し)に到着。今来た沢を下降する。開墾場の滝のところでは懸垂下降の練習を行った。

入渓地に戻り集合場所へ移動、着替えを済ませリーダーが作った味噌汁で乾杯、心もお腹も温まった山行となった。

(三品)



三間川 開墾場の滝

③湊川・梨沢 1月5日(日)、晴れ

◇参加者：三田博(CL)、三品京子、小川和敏、
竹内進

◇タイム：梨沢区公民館 9:00→入溪 10:00→

高巻き開始 11:33→房州アルプス尾根上 12:00→
公民館 14:20

房総の沢 3 回目は湊川支流の梨沢。梨沢区公民館で折良く地元の方にお会いでき、駐車の手配をいただく。最奥の家の先から入溪。明るく、三間川のような威圧感が無い。水量少ない沢床を進み 6m の不動滝。少ない水量を幸いに階段状の左側を登る。思いのほか倒木の少ない七つ釜を進むと直径 2m 位の人の背丈ほどの深さの釜、両岸とも切立ち越えられず、少し戻り右岸を高巻き。しかし、上流側の崖が続き下降点無く房州アルプスの尾根に出、遡行終了。七つ釜の神髓に出会い、陽だまりの尾根歩きを楽しんだ 1 日となった。(竹内)



高宕川 急駟滝

④湊川・高宕川 2月11日(火)、晴れ

◇参加者：三田博(CL)、山口文嗣、吉永英明、
三品京子、小川和敏、鈴木操、竹内進、
三田芳江

◇タイム：駐車地 9:12→入溪 10:05→急駟滝 10:
20→尾根登り口 12:07→高宕観音 13:36→駐車地
15:52

T 秘境・・・何とも魅力的な響き。T は高宕の T ? 高溝集落の奥に路駐して林道をしばらく歩きます。途中、山口 SL から沢での位置確認の仕方について地図と磁石で教えてもらう。この辺り独特の川廻しについても興味深い話が。入溪してすぐに「高溝の窓」の水による彫刻岩、そして黒滝から急駟滝へと。残置ロープに助けられ全員無事にクリア。沢を歩き続け、ようやく高宕観音堂へのルートに到着。テープがところどころにあるも、結構な細尾根や岩登りなどがあったなかなかスリリング。尾根を少し下りたところで地元のボランティアの方に出会いホッと

する。
観音堂では雨戸の修理中。やや遅いランチタイムを味噌汁で温まる。帰りは宇藤原経由で駐車地へ。水量が少なく、思ったより温かい沢でした。4 回目にして初の反省会を五井駅前にて。(小川)

沢登りは決められた登山道を歩く登山と違うバリエーション登山です。安全に楽しむためには、地図読みやセルフレスキュー、クライミング技術などが必要です。千葉支部内に「沢登り同好会」を作りましたので、一緒に学びながら沢歩き・沢登りを楽しみましょう。登録制にしますのでメールを。ta84372@jb4.so-net.ne.jp 三田まで。

初冬の硫黄岳

三品京子

14日、電車組は茅野駅で集合、夏沢鉱泉の送迎車で桜平駐車場に向かい車組と合流した。準備体操をしながら空を見上げると風は強いが雲のない青空、八ヶ岳ブルーと言うそうだ。今日は小屋まで林道をゆったり2時間ほどかけて歩く行程。途中昼食休憩を入れながら夏沢鉱泉に到着。早々に荷物を部屋へ置き各自飲み物を持ち寄り夕食までの時間を過ごす。

小屋のオーナーより今日はスペシャルな夕食「クリスマスコンサート&手作りディナー」と知らされた。夕刻ピアニスト 結城奈央さん、テノール歌手 絹川文仁さんが到着してコンサートが始まる。スタッフが手作りした料理をピアノ演奏に歌とトークを聴きながら10日早いクリスマス、宿泊客皆で楽しんだ。

15日、今回の山行は冬山初級登山、リーダーから装備リストをもらっており各自準備、出発前にアイゼン・ピッケルなど再確認し硫黄岳へ向け登山開始。

オーレン小屋までは1ヶ所川が凍結している以外ほとんど雪はない。休憩を取り分岐を赤岩ノ頭コース方面に進む。次第に足元に雪と氷が混じりだし注意して登る。途中振り返ると遠く雪をまとった北アルプスが木々の合間から見える。

オーレン小屋から2時間、赤岩ノ頭に到着。森林限界の先も雪が少ないとリーダー判断でアイゼン無しで登り硫黄岳に到着。風もなく雲もない穏やかな山頂、360度の大パノラマが迎えてくれた。槍ヶ岳、穂高岳、乗鞍岳、御嶽山、木曾駒ヶ岳から南アルプスまで見渡せる。もう少し景色を堪能したいが時間も迫り帰りはアイゼンを装着し安全第一で下山した。超一級の寒さと聞き心して臨んだ硫黄岳山行、冬山初心者を優しく迎えてくれた気がした。

山行日：2019年12月14～15日（晴れ）

参加者：松田宏也（CL）、三田博（SL）、羽藤美代子、
坂上光恵、柳川しげよ、三品京子（6名）

タイム：12/14、10：15 桜平駐車場—

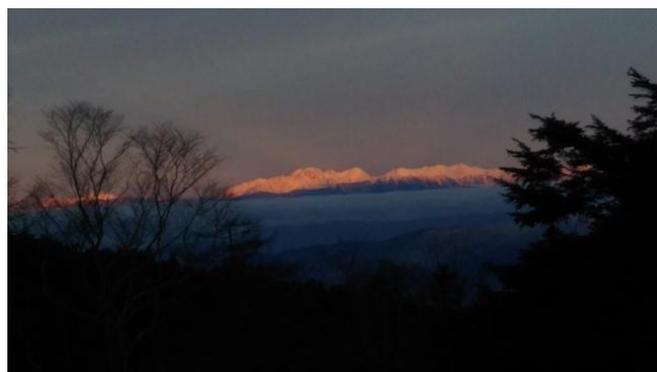
12：15 夏沢鉱泉（泊）

12/15、7：15 夏沢鉱泉—

8：27 オーレン小屋—10：20 赤岩ノ頭—11：15 硫黄岳—11：50

赤岩ノ頭—13：00 オーレン小屋—

13：50 夏沢鉱泉



いわきの岩峰 ニツ箭山 柳川 しげよ

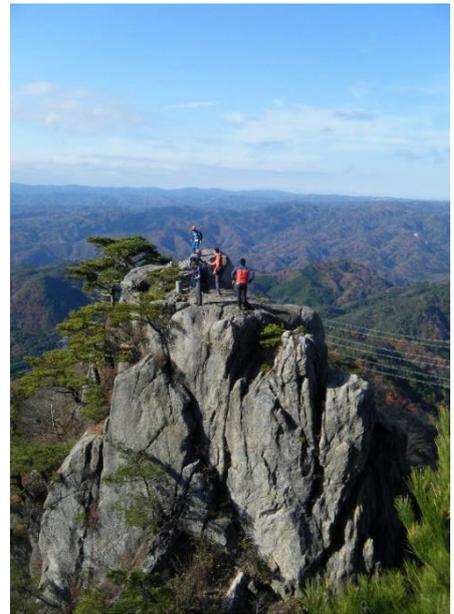
30日は五浦六角堂の観光、いわき健康センターで宿泊し、翌朝、快晴の中、ニツ箭山に向かう。以前から山友に岩峰フタツヤサンの事を聞いていたので、楽しみにしていた。登り始めてしばらくすると、30メートル鎖場にさしかかった。筑波山よりも低めの山と思っていたが、山は高さだけではなかった。気が引き締まった。必死に鎖につかまり、短い足で岩の溝を探しながら進む。やっとの思いで、男体山の頂上に立つ。素晴らしい眺望。

しかし、山は登った以上必ず降りなければならない。

山行日：11月30日(土)～12月1日(日)

参加者：三田 博(L)、宮崎 美智代、柳川 しげよ

不安がよぎる。そして、ニツ箭山(709m)の頂上へ。下山は思った通り足場を探すのに四苦八苦。リーダーの声かけにやっ而降ることができた。皆無事に下山でき、ほっとした山だった。



丹沢高松山

香高真奈美

小田急線新松田駅から登山口までタクシーに分乗。「清見オレンジ」の木々の間の坂道をぬけていく。何やら山の斜面は大規模な工事中である。その物見台からまずは展望を楽しんだ後、頂上を目指す。わかりやすい標識に従って登り「ビリ堂」で小休止、最後は整備された木の階段だ。数字がふってあり、220段！



皆で声かけあって頂上(801m)へ出た。ひらけていて金時山や丹沢山塊が一望できる。

下りは周回コースなので上りとは違う道。針葉樹林の中の広くて歩きやすい道だ。そしてある所で美しい光景が現れる…数十本の低木樹の枝の先についた輝く白い綿のようなもの！可愛く下を向いた沢山の白い蕾は、みつまたの花だった。

下山後の皆の感想は「いい山だ、違う季節にまた来たいね」でした。

山行日(天候)：2020年1月25日(土)(曇り)

参加者：松田宏也(L)、三田博、三田芳江、
山崎完治、湯下正子、柳川しげよ、
中場義則、野口徹、宇津木仁典、
松本さゆり、香高真奈美

タイム：登山口 9:30～13:30

雪上訓練と谷川岳

三田博

山行日（天候）：2020年1月18日～19日(曇)

参加者：三田博（L・記録）、山口文嗣、宮崎美智代、三品京子

タイム：1/18、13：00～15：00 雪上訓練。

1/19、9：10 ロープウェイ山頂駅→10：30

熊穴沢避難小屋→11：22・1730m地点→

13：30 ロープウェイ山頂駅



18日朝、東京駅で集合し普通列車で水上へ。水上駅で今夜の嗜好品を仕入れてからバスで土合へ。宿泊する「土合山の家」に荷物を置き、冬山装備を身に着ける。今年は暖冬で雪が少ないとはいえ、一面の雪景色だ。

1日目は山口さんが講師になっての「雪訓」です。白毛門登山口で、まずアイゼン無しでキックステップ、ワカンで急斜面の登下降を行う。アイゼンを装着しての登山は必要最小限に留めることが大事。次にビーコンとゾンデ棒を使っての埋没者捜索の仕方など教えてもらう。女性二人には雪に埋まった私の背中で、ゾンデ棒で人を突いた時の感触を知って頂けたと思います。2時間ほどだが、なかなか中身の濃い訓練だった。宿に戻って一風呂浴びたら、お楽しみのドリンクタイム。夕食は赤城牛のステーキでした。

翌日は、まずまずの天気の中、谷川岳を登る。ロープウェイが8：30にならないと動かないので、朝食はゆっくり。厳冬期のこの時期は、ロープウェイはそれほど混んでいない。スキー客と山岳会や山岳団体の訓練組が多い感じ。スキー場の脇を天神尾根めがてアイゼン無しで登る。途中からトラバースするの

だが、雪が少なく飛び出た小枝が邪魔くさい。トラロープで下りる危ないところが一か所あった。小休止した熊穴沢避難小屋も半分程度しか埋まっていなかった。ここから急登が始まるが、まだノーアイゼン。天狗の溜まり場を過ぎてアイゼンを付ける。見上げると肩の小屋あたりから上はガスで見えない。夏山のコースタイムでのペースを想定していたが、雪山はやはり時間が掛かる。時計を見ると11：20。帰りの電車時刻もあるので、登りは11：30までと決めていたが、この調子では小屋までも着けそうもない。無理して登っても、山頂からの見晴らしも期待できそうもないので戻ることに相談して決める。標高は1,730mぐらいだろうか。そうと決まれば下りは早い。息せき切って登った雪面をさっさと下り、あっという間に避難小屋に着いた。振り返ると、悔しいことに山頂のガスがどんどん晴れてきている。よくあることだが、やっぱり悔しい。谷川岳は「近くてよい山」、登頂は次の機会の楽しみにする。

忘年山行 高宕山と御殿山

齋藤米造



21日 17名を3班に分け出発。20分程で石射太郎のピークに出た。かつて石切り場だった跡を横に見ながら進むと、この先から山が荒れ始める。あちこちで、木々が岩盤から根こそぎ剥ぎ取られるように倒れている。台風の爪痕が生々しい。

しばらくすると、長い石段の手前に狛犬や苔むして異様な形相の仁王像が立ちはだかり高宕山が信仰の山であることがわかる。石段を登りきったところが、巨大な岩を穿って建てられた高宕観音堂だ。

岩をくり抜いた道を進むと高宕山の山頂に出た。雨乞い祈願に使ったと思われる錆びて朽ちた鉄鍋が石祠の横に置かれている。山頂から高宕観音堂に戻り、昼食後下山した。

夜は内浦山県民の森で名物の金目鯛をいただいた後、会場を移して山本さん撮影の山の画像集を楽しみながら、忘年会は夜遅くまで盛り上がった。

22日 今日は高照寺前の駐車場を出発して、山田ルートを通り御殿山363mを目指す。

急登の舗装路を経て砂利道を登ると、石の大黒様を祀ったところに出た。にこやかで福々しい大黒様が、眼下の山田の集落を見守っている。どんよりした空だが、まだ雨は降らない。

しばらく行くと頂上直下で道は二股に分かれるが、直登のルートを進んだ。

ガイドブックに『擬木の急階段を登ると山頂で、スダジイ1本、マテバシイ4本の大木がシンボルの巨大な樹冠を作り・・・』と紹介されている山頂に出て唾然とした。樹冠を構成する巨木が根元からなぎ倒され、山頂を覆っていた。一体全体ここでどんな強風が吹き荒れたんだろう！と絶句した。



この二日間、台風の猛威を実感した忘年山行だった。年明けには『千葉の山復興プロジェクト』が始まる。房総の山道を復活させるため、私たち千葉支部も力を合わせて取り組みたい。

山行日(天候): 2019年12月21日(くもり)、22日(くもり)

参加者: 三田博、鈴木操、山口文嗣、三田芳江、三品京子、高橋琢子、松田宏也、黒田正雄、岩尾富士夫、山本哲夫、梶田義弘、小林義亮、竹内進、山田紀夫、小川和敏、宮崎美智代、柳川しげよ、吉田明子、齋藤米造(忘年会のみ参加者含む)

タイム: 21日 9:18 石射太郎登山口→9:40 石射太郎→10:58 高宕観音堂→11:30 高宕山頂上→12:00 高宕観音堂(昼食)→14:10 石射太郎登山口

22日 9:30 高照寺駐車場→10:06 大黒様→10:40 御殿山頂上→11:48 駐車場

晴香園の子ども達と弘法山

香高真奈美

弘法山は一帯が整備された公園になっている。特徴ある六角形の展望台が秦野駅から見える。駅で挨拶と顔合わせをして出発！Mクラブの子ども達は元気一杯で「ミッキー」にまわりついている。早速「玉ねぎ状風化」の説明を聞く。この東丹沢域に見られる、玉ねぎの皮を一枚ずつ剥いたような、バラの蕾のような形状の岩でおもしろい。途中、金時山や箱根大涌谷が目の前に見えて「今度あの山に登りたい」と皆で金時山を指差して盛り上がった。山頂では、乳の井戸、の水をポンプで汲み上げて飲んでみた。まるやかで美味しい水だ！

晴香園との山行は今年度はこれが最後。「次はいつなの？」「早くまた登りたい！」との声が嬉しい。



山行日:2020年1月12日(日)曇り

参加者:三木雄三(L)高橋琢子、中田彩、
國宗文、香高真奈美、
晴香園の子ども5人職員2人、
入会希望者数名

タイム:10:30 秦野駅から14:30 鶴巻温泉
泉駅

マイペース登高能力テストー塔ノ岳・大倉尾根

小川和敏

一緒には登らない？息が上がらない程度の速度？・・・登高能力テストで「バカ尾根」にチャレンジです。9時頃に大倉に到着し山田CLから今回山行の主旨説明を聞く。何だか面白そう！最初のポイントである観音茶屋、到着後すぐに時間の確認と心拍数の計測、主観強度の記録をします。頂上を含め計6ヶ所でそれを繰り返しました。多少の差が出ましたが何とか全員が13時過ぎに頂上へ。やや遅い昼食後下山です。大倉尾根の長いこと！あまり休憩もせず唯々下りる。途中でミカンのお土産を買ったりしながらも、目標の17時より30分前にバス停に到着です。もう気持ちは反省会へ。渋沢駅南側の「いろは食堂」に突入。寒ブリ初め美味しい肴に舌鼓を打ちながら地酒まで。何ともユニークな山行に話題が尽きません

山行日(天候):2月8日(晴れ)

参加者:山田紀夫(CL)、山口文嗣(SL)、
羽藤美代子、三田博、齋藤米蔵、柳川しげよ、
今井貴朗、三田芳江、小川和敏(記録)

タイム:大倉バス停9:15発→見晴茶屋10:05
→駒止茶屋10:45→堀山の家11:10→花立山
荘12:15→塔ノ岳13:10→大倉バス停16:30



新島山行（宮塚山、石山）

今井貴朗

予定通り 10 時に竹芝出港、美しい夜景を楽しみながらの旅、すでに心が昂る。個人的に島トレッキング好きなので山田リーダーには感謝！

翌日予定通り新島入港、宿で荷物整理して早速出発。途中名物パン屋等で昼食を仕入れて登山口へ。天気も上々、整備された道を楽しんで 50 分ほどで見晴らしの良い富士見台にて休憩。近くに式根、神津、遠くに大島、伊豆半島を望む。島トレッキングの醍醐味、式根島が意外に小さく驚いた。あした葉摘みの地元老夫婦との会話も楽しい。

十分休憩して元気に宮塚山頂上、絶景を楽しみながら昼食。山田リーダーの淹れてくれたコーヒーが美味しい。下りは一時雨にも見舞われたが程なく上がり、海岸では虹も見られた。反対側の海岸では天気も回復、富士山、美しい夕日も楽しめた。

翌日は石山登山を楽しみ、下山後に郷土ガラスアート土産ゲットして帰路、よく歩き楽しんだ 2 日間だった。

歩行日（天候）：2020 年 1 月 11～12 日（晴れ）

参加者：山田紀夫(CL)、小川和敏(SL)、
吉田望（会計）、塩塚生二、今井貴朗

タイム：

1/11、温泉ロッジ(8:50)→富士見峠入口(9:35) →
富士見峠(10:30/55)→宮塚山（11:30/12:15）→富士見峠入口（13:25）→羽伏海岸(13:40/14:10)
→ 十三神社（14:40）→博物館(14:55/15:40)
→温泉ロッジ(17:00)

1/12、温泉ロッジ(8:50)→石山（9:25）→温泉ロッジ
(10:20)→ガラスアート(10:25/11:00)→
新島港(11:25)



「第9回登山教室指導者養成講習会」に参加して

三品京子

JAC 支部事業委員会主催の「登山教室指導者講習会」(2月1~2日)に参加した。初日は「安藤百福記自然体験活動指導者養成センター」において22名参加で講義が行われた。まず始めに長野県警察山岳救助隊副隊長、岸本俊朗様より遭難の発生状況と傾向、ヘリコプターでの救助の危険性についてお聴きした。続いて医療委員会の植木貞一郎氏より低体温症・凍傷の基礎知識と対策について講義いただき、低体温症は夏でも起こり早期発見が重要と認識した。その後、川瀬恵一遭難対策委員長から明日の実技に必要なロープワーク、ツェルトを使った雪上搬送方法の実演、そして重廣恒夫元副会長よりリーダーの心構え、要求されること、事故発生時対応についてレクチャーいただき一日目を終えた。



二日目の実技は高峰高原水ノ塔で、グループに分かれ雪崩による埋没者探索と掘り出しの実践、アンザイレン歩行訓練を行った。改めてこの講習会においてリーダーの重要性、良いリーダーとは何かを学ぶ事ができ今後活かしたいと思った。

(支部参加者：三田博、三品京子)

グレートヒマラヤトラバース 千葉支部から松田支部長が遠征隊員に

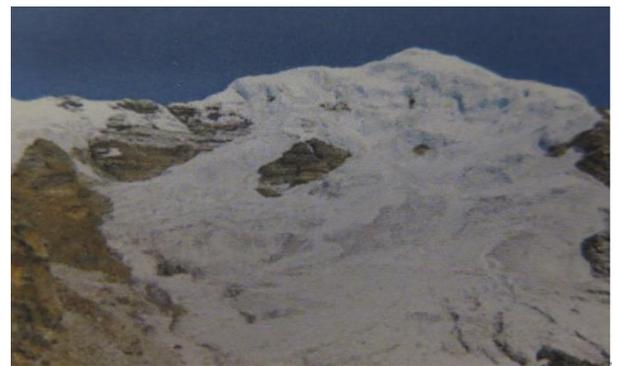
日本山岳会は創立120周年記念事業の一つとしてグレートヒマラヤトラバースを行います。これは、カンチェンジュンガからK2まで約5000キロを2020年春から24年秋まで5年間かけて踏査しようというもので、第1回目の隊員の一人として千葉支部の松田宏也さんが派遣されました。

第1回目は3月初旬から4月中旬にかけてカンチェンジュンガエリア踏査及びネパールチベット国境上のPabukKan(6244m)登頂を目指すものです。

松田隊員たちは2月29日出国、無事ネパールに入国、ほぼ日程どおりに進行しているとのこと。しかし、コロナウイルスの影響で3月10日を最後として全てのトレッキング隊、登山隊の入国が禁止となっているそうです。

困難な条件の下で遠征の所期の目的達成と無事な帰国を祈ります。

(吉野聡)



PabukKan(パブクカン)

遠征隊員	
重弘恒夫	関西支部
松田宏也	千葉支部
吉井 修	首都圏支部

寄稿

ウチーチェリ峰 (4540m) in キルギス

坂上 光恵



昨年秋、中央アジア・キルギスのアラアルチャ国立公園にあるウチーチェリ（ロシア語で教師の意）峰に出かけることにした。

9/30 モスクワ経由でキルギスの首都ビシュケクに着いたのは10/1※ 早朝4:55。午後から装備チェックと明日のルートを確認、報告書が参考になる。

10/2※※ 8:00 ビシュケク発。車で9:10にはキルギスアラトーの山の入り口(2200m)到着。以前山スキーで来たことがあるので懐かしい。すぐ左の針葉樹の多い山道をアクサイ谷に入っていく。少しずつ高度を上げ10:20「Water Fall」の標識(2460m)で1本とり周囲を観察する。山道にも雪があり周囲の山も上部は雪が結構被っている。これは夏とは随分変わってきているなという感じである。1日目なのでゆっくり進み岸壁の脇を抜けると古い山小屋が岩にくっつくようにあり15:30到着(3300m)。ここは岸壁が多く国際山岳ガイドの研修所があり、何人もが来ている。5分先には新しい山小屋があるが、私はガイド達と一緒にここに宿泊。雪が降り始めだんだん強くなってくる。



10/3※ 8:00 朝食。今日は高度順応でアクサイ氷河を上ることになる。8:50 すっかり白くなり歩き易い道を奥の小屋の前から30分程登り、稜線に出たところでハーネス、クランポンを着け、ロープを組む。巨大なアクサイ氷河が眼前に迫り、クレバスの縞模様があちこちにあり緊張する登りが続き、なかなか休む所もない。2か所固く凍っているところがあり、クランポンの爪がなかなか刺さらずきつかった。12:00にやっと上部(3600m)に出、昼食。太陽がでていと思わず半袖になるくらい雪の照り返しが強い。帰りは氷河をトラバ

ースし反対側のコロナ峰の下にまわって下り、小屋の戻ったのは16時。疲れた。

10/4※☁ 朝から雪がちらつき重い雲で6時出発を延ばし様子を見、結局出たのは8時。これが後で遅れる要因のひとつになる。10:20 なかなか天候が好転せず進むかどうか様子を見ることにする。このタイムロスもあとから考えると大きかった。少し太陽が見えそうになり進むことに決定。ウチーチェリ峰は登りだけなのは昨日氷河からよく偵察しておいたので、そのつもりでいたが、雪が多く時折ラッセルしなくてはならず、岩の上を歩く夏とは全然違う。昨日のアクサイ氷河も全体があまり見えない。ただただ急登を繰り返し、「ウサギの耳」(4245m)と呼ばれる大きな岩を過ぎた時はもう13時。あと300mの標高差はきつく、頂上には15時30分やっと到着。写真だけ取りすぐ下る。ガスがだんだん濃くなり周りの目印にしていた岩もはっきりしない中、ヘッドランプの明かりを頼りに下る。雪が降っていたら足跡が消えていたことだろうが、運よくなんとか消えずにいた。真っ暗な中、小屋からテルモスに紅茶を入れて迎えに来てくれた他のガイドの親切に感謝して、やっと小屋に帰ったのはもう20時30分。

10/5※ 帰りは下りのみで5時間で登山口に到着。今回の反省事項は、夏山との違いである昼間の短かさをもっと把握しておくべきだったこと。ヘッドランプは常にチェックして強い光を持続させることが課題として残った。帰ってからすぐヘッドランプを買い直したのは言うまでもない。どちらにしても忙しい登山だった。

シリーズ

あのころ君は若かった (第2回)

吉永 英明

昭和39年(1964年)3月19日、22才の私である。大学山岳部最終年の春山合宿(2/25~4/1、赤谷尾根~剣、極地法)での三ノ窓最終キャンプから剣アタックの際のものである。学生最後の思い出にとアタックさせてくれたものであろう。悪天のためアタック成功後の撤収に手間取り、会社の入社式に4日程遅れた次第、幸い本社総務部配属であったため事なきを得た。



●2020年度 支部総会のお知らせ

2020年度の通常総会を下記により開催いたします。この総会において2019年度事業及び決算報告、2020年度事業及び収支予算計画などご審議いただきます。議案等関係書類は郵送します。

また、総会終了後には懇親会に代わり「安間繁会員の秩父宮記念山岳賞をお祝いする会」を予定しております。

記

日時 2020年5月9日(土)

午前9:30から受付

場所 千葉市文化センター 9F会議室

〒260-0013 千葉市中央区中央2丁目5番1号

TEL: 043-224-8211

総会 10:00~10:50

記念講演 11:00~12:00 安間繁会員

懇親会 12:30~14:30

美弥和(みみわ)本店 043-225-5377

宮原巍(たかし)さんの思い出を語る会

1月25日(土)

ヒマラヤのドン・キホーテの異名を持つ宮原巍さんの思い出を語る会が高輪のネパールチベット料理レストラン「レッサム フィリリ」で行われた。

千葉支部から昨年3月、カトマンズでカレーをごちそうになったメンバーが大挙して参加した。

日本ネパール会会長の吉永英明さんをはじめとして知人・友人が思い出を語った後、追悼ミュージックライブ、ネパールダンスへと展開しみんな宮原さんを偲んだ。

(吉野聡)



支 部 山 行 の 計 画

4月以降の山行計画です。参加・問い合わせは各リーダーへ。

山行委員会

日程	山 名	難 度	備 考	リ-ダ-	締切
4.10(金)	秩父・叢山	A	桜の名所・美の山公園	小川	4.3(金)
4.17(金)	本仁田山	C	登りがいある奥多摩駅の裏山	小川	4.10(金)
4.18(土)	桜ウォーク	W	分水界越えと八重桜	杉本	4.11(土)
4.19(日)	猿橋と岩殿山	A	(自然学)猿橋溶岩と岩殿山の地層巡検	三木	4.12(日)
4.25(土)~4.26(日)	会津駒ヶ岳	D	残雪・麓に泊まり滝沢登山口から日帰り	三田	4.1(水)
4.25(土)	つくば市	W	つくば学園都市めぐり	杉本	4.18(土)
5.2(土)	奥多摩・シダクラ沢	C+	沢登りで御前山へ	三田	4.18(土)
5.3(日)~5.6(水)	北穂高岳	D+	まだまだ冬山、急斜面の登下降	山本	4.14(火)
5.9(土)			千葉支部総会		
5.16(土)~5.19(火)	宮崎の山		全国支部懇(宮崎支部主催)+高千穂峰ほか	三田	締切済み
5.16(土)	桐生・吾妻山	A	桐生の低山(5/22から変更)	小川	5.8(金)
5.16(土)	手賀沼・東京湾④	W	大津川沿いを歩く	杉本	5.9(土)
5.23(土)~5.24(日)	式根島	A	伊豆諸島の山旅シリーズ③	山田	4.23(木)
5.24(日)	奥武蔵・顔振峠	A	(自然学)山の地滑り地形巡検	三木	5.17(日)
6.5(金)~6.6(土)	伊豆・天城山	B	シャクナゲ時期に。マイカー使用	小川	5.22(金)
6.6(土)~6.9(火)	姫神、秋田駒、焼石	C	岩手、秋田の名山。焼石は昨年の再挑戦	羽藤	5.6(水)
6. 7(日)	滝子山	C	夏山トレーニングのつもりで	三田	6.6(土)
6.20(土)	江戸川周辺	W	江戸川と水元公園	杉本	6.13(土)
6.21(日)~6.27(土)	台湾・南湖大山	C+	中止	岩尾	
7.5(日)	自然教育園	W	(自然学)自然教育園(港区白金台)見学	三木	6.28(日)
7.10(金)~7.11(土)	尾瀬・笠ヶ岳	C	鳩待山荘に泊り、笠ヶ岳。夜行バスで	三田	5.30(土)
7.11(金)~7.22(水)	北海道の山	C+	幌尻岳と羊蹄山	山本	6.15(月)
8.2(日)	富士山お中道	A	(自然学)富士山お中道の植物と地形	三木	8.1(土)
8.4(火)~8.8(土)	雲ノ平・黒部周遊	C+	折立から山小屋4泊、健脚向き	三田	7.1(水)

日本山岳会千葉支部

日程	山名	難度	備考	リーダー	締切
8.21(金)～8.22(土)	宝剣岳と三ノ沢岳	C	ロープウェイで千畳敷へ、宝剣山荘泊	三田	7.25(土)
8.22(土)～8.24(月)	四阿山他	～C	高峰の日大小屋ベースで。1泊でも可	松田	7.31(金)
9.3(木)～9.7(月)	光岳・聖岳	C+	今年こそ行けるでしょうか	山本	8.3(月)
9.5(土)～9.7(月)	霧ヶ峰、北横岳	B	初秋をのんびり	松田	8.5(水)
9.6(日)	江戸川河口	W	市川の花と江戸川下流地域	杉本	8.30(日)
9.11(金)～9.12(土)	両神山	C	クルマで両神山荘へ 日向大谷から	小川	8.11(火)
9.18(金)～9.21(月)	信越トレイル	C	2018年の続きを踏査。黄葉真っ盛り	松田	8.18(火)
9.20(日)	成田空港・新勝寺	W	空港B滑走路から取香川・新勝寺	杉本	9.13(日)
9.19(土)～9.20(日)	奥利根・大水上山	C	利根川の最初の一滴を飲む。 前夜発、避難小屋泊	山口	8.26(水)
10.3(土)～10.5(月)	秋田・桃洞沢	D	東北で沢登りとテント泊	三田	9.3(木)
10.3(土)～10.4(日)	縞枯山	B	(自然学)縞枯れ現象を山小屋泊で巡検	三木	9.19(土)
10.4(日)	行徳・篠崎地区	W	常夜灯公園・権現通り・影向の松	杉本	9.27(日)
10.16(金)～10.17(土)	御座山、荒船山	B	クルマ1～2台で各登山口からピストン	小川	9.16(水)
10.19(月)	鎌倉	W	朝比奈切通から鶴岡八幡宮	杉本	10.11(日)
10.24(土)	大菩薩嶺	B	上日川峠を起点に大菩薩を周遊	三品	10.1(木)

個人山行も計画書提出を 送信先 chiba_jac@yahoo.co.jp

リーダーの連絡先	
杉本正夫	
松田宏也	
三木雄三	
三田 博	
山口文嗣	
山田紀夫	
小川和敏	
三品京子	
羽藤美代子	
山本哲夫	

<p>難易度</p> <p>W ウォーキング</p> <p>A 整備され歩行2～3時間</p> <p>B 歩行5時間前後</p> <p>C 歩行7時間前後、一部岩あり体力要</p> <p>D 強い体力、岩技術要</p> <p>E 高い適応能力要、危険度大</p> <p>(難易度はJAC日本300名山を参考； 岩、積雪期は難易度アップとする)</p>

【山行の申込み】リーダーが記載漏れのない計画書を作成する必要から参加申し込みは、原則として電子メールで行ってください。その際には下記事項の記入をお願いします。

氏名、生年月日、年齢、住所、自宅電話番号、携帯電話番号、緊急連絡先氏名（続柄）、緊急連絡先電話番号

山行によっては定員を設けている場合があります。その時は先着順になりますので早めに申し込みして下さい。山行によっては、技術・体力不足、初参加で力量が不明の場合はお断りすることがあります。

【山行の心得】リーダーは、ガイドや添乗員ではありません。連れて行ってもらうのではなく自主的な意識を持ち参加してください。リーダーが参加者にそれぞれ役割を振り分けますので、積極的に引き受けてください。参加する前に、山域、コース、交通機関などは地図やガイドブック、ネットなどで十分下調べして下さい。地図・コンパス・筆記用具は、どんな山行でも必ず持って来てください。また、山行に見合った登山保険には必ず入ってきてください。遭難救助付きの保険加入は任意ではなく、すべての登山者の義務です。体調不良者が出れば事故と同じで、山行は中止になり引き返すこととなります。日頃の自主トレーニングも行うようにしてください。

ウォーキングクラブ活動報告（10月～1月）

杉本正夫

- ① 10月19日(土)9:20～14:30 印旛沼から利根川② 天候 晴
コース：安食駅－長門川－豊年橋－長門橋－甚兵衛橋－印旛水門(利根川)－近隣公園(昼食)
－房総風土記の丘－房総の村－坂田ヶ池－下総松崎駅
参加者：岩尾、塩塚、新井、国宗、山口、杉本、6名
- ② 11月17日(日)9:20～15:00 新旧の浦安市街巡り 天候 曇のち晴
コース：新浦安駅－浦安総合公園－高須海浜公園－若潮公園(昼食)－郷土博物館－旧大塚・宇田川家－清滝神社－旧江戸川西水門－浦安橋－浦安駅
参加者：香高、新井、塩塚、三木、杉本、5名
- ③ 12月1日(日)9:30～15:00 市川のイチョウとモミジ 天候 晴
コース：市川大野駅－万葉植物園－市民キャンプ場－丸山の森緑地－ファイターズタウン(昼食)－市川霊園－市川動植物園－大町駅－くぬぎ山駅
参加者：香高、高橋正、塩塚、梶田父子、高橋琢、稲川母子、吉田、廣村、岡部、杉本、12名
- ④ 1月18日(土)10:30～14:30 成田さくらの山公園と新勝寺初詣 天候 雨
コース：空港第2ビル駅－新取香橋－さくらの山公園(昼食)－三連トンネル－東和田駐車場－成田山新勝寺(雨のため予定の川土手道を舗装の里山道に変更)
参加者：小林、塩塚、高橋正、新井、永岡、竹園、杉本、7名

【役員会報告】

○12月報告 12月18日 美弥和

山行報告 元清澄山（中止）、筑波山、館山野鳥の森（中止）、三間川左俣、夏沢鉱泉から硫黄岳

山行予定 忘年山行、房総の沢ほか 台風被害状況、年次晚餐会報告他

○1月報告 1月15日 ヨシキ YY ルーム

山行報告 忘年山行、房総の沢、新島、弘法山、蔵王スキー

山行予定 谷川岳、成田山ウォーク、高松山、房総の沢、塔ノ岳、4支部懇

年度テーマ進捗報告、若年会員増強策、来年度事業、房総の山復興、登山指導者教室、入退会報告他

○2月報告 2月19日 ヨシキ YY ルーム

山行報告 谷川岳、成田山ウォーク、高松山、房総の沢、塔ノ岳、4支部懇

山行予定 手賀沼、幕山、赤ぼっこ、天上山、海老川河口

4-10月山行予定、年度テーマ進捗、支部だより他

●会員の動向

《入会》

岡部紘（おかべ・こう）さん 13101 市川市

野口徹（のぐち・とおる）さん 16566 東京都狛江市

桑野あさひ（くわの・あさひ）さん 16137 埼玉県所沢市

藤木玄三六（ふじき・いさむ）さん 16563 神奈川県綾瀬市

《会友》

密本織絵（みつもと・おりえ）さん 八街市

《退会》

堂本暁子さん（5096）、新村貞男さん（10692）、宇野恵子さん（会友）

●50歳未満は入会金と年会費2年間免除します

千葉支部への入会には経験・年齢の制限は設けていません。身近な人で登山経験者や登山を始めてみたい方がいましたらご紹介ください。入会希望者向けの「お試し山行」に参加できます。日本山岳会への入会も御相談に乗ります。また若年会員が入会しやすいように50歳未満の入会者は入会金1,000円と2年間の年会費（会費1,500円または会友会費3,000円）を免除します。

（編集後記） 新型コロナウイルスが猛威を振るっています。小中高の休校、大相撲の無観客開催、プロ野球の開幕延期等々何事も全て自粛、とにかく早く収束することを祈るばかりです。

「千葉支部だより」もお蔭をもちまして今回で50号を迎えました。この節目を機に編集担当を降板させていただくこととなりました。24号（平成25年9月号）からの6年半、あっという間に過ぎた感じですが、何より読みやすい紙面とすべく、多くの会員・会友の皆さまにご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

今後とも、千葉支部及び支部だよりが更なる発展を遂げていくことを願います。（吉野聰）